大銀杏
野球号外②
令和４(2022)年
７月15日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
（高校）
中田大翔 井上晃喜
村元颯泰 樫山翔太
片桐伊織 高橋 新
三田航太朗 荒嶋航成
井上晴道 水野 真
野田 諒 細貝 陽
秋元鴻佑 植竹隼也
田中湧大
（中学校）
経澤悠希 川村一惺

３投手継投で完封 打線好調９安打で圧勝

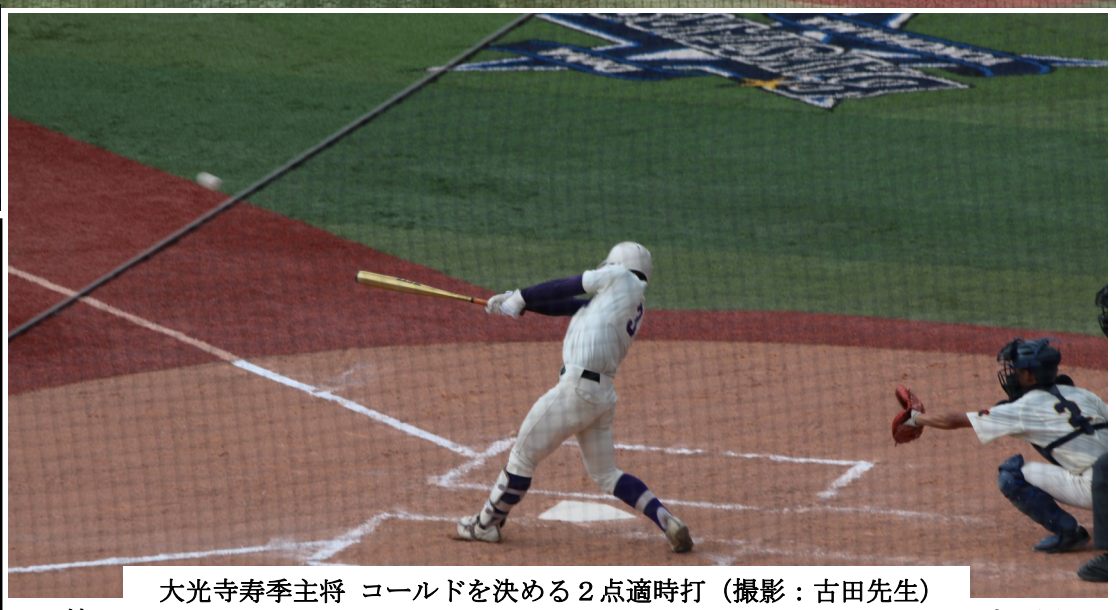
３回戦 対川崎工科 一七日一二時半 開始予定 俣野公園横浜薬大スタジアム

７月14日13時、横浜スタジアムにて第104回全国高等学校野球選手権神奈川大会２回戦、桜丘戦が行われた。曇天の蒸し暑さの中、結果は10対０、６回コールドと圧勝した。後攻の本校は１・２回、４・５・６回と単打や２塁打、犠打、好走塁により得点を次々に挙げた。無失点の投手陣は重松投手が４回被安打０、宮澤投手が１回を被安打０、根岸投手が１回を被安打２と桜丘打線を抑えた。打線は９安打と藤嶺藤沢打撃コンセプトである「速く・低く・鋭いバットスイング」が１回戦に続き多く見られた。失策は２であったものの、１回戦に続き６イニング通じて守備も安定していた。

２回戦、藤嶺藤沢は対戦校の桜丘に３投手継投で完封勝利を収めた。１回表、桜丘の攻撃を無失点に抑え、その裏先制の１点を入れ、２回以降さらに加点していく。２回表も無失点に抑え、その裏１点を追加した。藤嶺藤沢はこの２点目が取れたことにより試合の流れを完全に握りその後、攻撃は波に乗っていった。３回は得点を入れることができなかったが、４回裏、２アウトの中、早田選手のヒットにより１塁、２塁走者が生還し２点を追加した。５回にさらに２点を追加し６－０となり、この時点でコールドゲームも想像できるほど打線に勢いがあった。そして６回、本校の攻めは止まらない。重松選手、具志選手、高山選手がそれぞれ出塁し、満塁の状況を作り、最後は小早川選手が四球を選び、根岸選手がスクイズを成功させ、そして大光寺選手が打ち10－０、６回コールド勝利となった。見事な打線のつながりが見られ、素晴らしい試合だった。

６回表の桜丘は満塁のチャンスを作った。どれだけ点差が離れていても少しでも本校に追いつこうとした桜丘には敬意を表したい。

【文:井上晴 写真:三田 井上晃】



大光寺寿季主将 コールドを決める２点適時打（撮影：古田先生）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
桜丘	0	0	0	0	0	0				0	2	2
藤嶺藤沢	1	1	0	2	2	4x				10	9	2

試合後も表情をあまり変えない先発重松投手に一言お願いできますかと質問した。質問に対し「俺に？」と確認した後に「勝ててよかったです」と表情を緩め語ってくれました。マウンドに立つ真剣な表情と違い試合後は、勝利後の気持ちが伝わってくる一言でした。

【井上晴】

試合後、山田監督は「６回裏でコールドになるとは思わなかったから。ベンチの選手を起用しようと思っていたら終わってしまった。突然の幕切れで困惑した。でも良かったよね。ピッチャーが良かった。」と投手陣の力投を讃えた。試合中、眼光鋭い指揮官も取材に応え「よろしく」と爽やかに球場を後にした。選手、監督の本大会への思い入れが犇々と伝わってきた。

【井上晃】

藤嶺完勝 走攻守で上回り６回コールド

攻撃では、初回、２回と桜丘高校の隙を逃さず、バントや盗塁を成功させ、ノーヒットで２点を奪うと、４回は重松、新井に適時打が、５回には早田から２点適時打が飛び出した。６回には、小早川が押し出しとなる四球を選び、根岸のスクイズ、大光寺がコールドを決める２点適時打を放ち一挙４得点を挙げた。守っては、先発のエース・重松が長身から繰り出されるストレートを軸に４回まで完全投球を披露。以降５回は２番手にアンダーローの宮澤、６回は３番手にサウスポーの根岸がそれぞれ走者を許しながらも粘りの投球で無失点に抑えた。

勝負強い打撃に、鍛えられたバント技術、相手高校の穴を突く走塁が見事にかみ合い、守備ではそれぞれタイプの異なる３投手による継投策で相手の的を絞らせなかった。巧みに試合を運び投打で圧倒する、山田采配の真骨頂が存分に発揮された試合であった。

【卒業生 矢澤拓郎】